

フィンランド編 Part 2: 人の目レベルの超高解像度 VRデバイスを実現した Varjo 社



JUSSI MÄKINEN

Chief Marketing Officer, Varjo Technologies Oy

前号に引き続き、JOI Venturesフィンランド編をお届けします。JOIとBusiness Finland Japan（駐日フィンランド大使館商務部）がタイアップして、日本でのビジネス拡大、日本企業との連携・協業を模索する、次世代を担う有望なベンチャー企業を紹介します。

今号は、VRデバイスで先端を走るVarjo社です。CMOのMÄKINEN氏に伺いました。

Varjo 設立の背景、これまでの歩み、展開について お聞かせください

Varjoは、世界で最も先進的なプロフェッショナル向けVR/XR製品によって、現実世界を再定義するとのミッションを掲げ、2016年に設立されました。創設者とコアチームのメンバーはすべて、ノキア、マイクロソフト、NVIDIA、INTEL内で革新的な技術や製品の開発にかかわった経歴を有しています。設計、エンジニアリング、トレーニング、シミュレーションの分野で最も先進的な顧客企業に、自信をもって提供できるきわめて革新的な製品を作りたいと考えていました。

Varjoのブランドは、日本の美意識とスタイルから多くのインスピレーションを得ています。Varjoのブランドの方向性を考え始めたとき、谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』（いんえいらいさん）という本を読み、有用な示唆を得ました。Varjoはフィンランド語で「影」を意味します。私は以前、東京に住み、フィンランド大使館に勤務していたこともあり、日本はVarjoにとってビジネスと文化の両面で欠かせない存在になるだろう、という確信がありました。

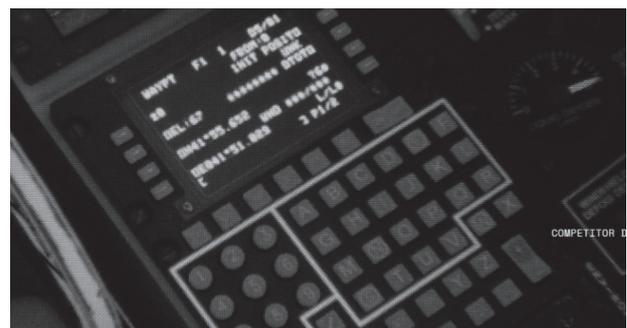
Varjoの強みは何でしょうか

Varjoは、「バイオニックディスプレイ」と呼ばれるディスプレイ技術を発明し、特許を取得しています。これにより、仮想コンテンツを人間の目の解像度で見ることを可能にしました。他のVRヘッドセットの約20倍の解像度であり、現実世界と同じように仮想世界を見ら

れるようになります。この技術を、仮想世界を現実世界に重ね合わせて体験できる複合現実（MR: Mixed Reality）を意図して組み合わせると、現実世界と仮想世界の区別がつかないほどです。当社の最新製品Varjo XR-1は、人間の目の解像度の仮想コンテンツを現実世界の上を実現します。これにより、Microsoft HoloLensやMagic Leapよりも、強力で幅広い用途に使えるプロフェッショナルツールとなります。

Varjoの製品ロードマップ（ハードウェアとソフトウェアのいずれも）は、最も要求の厳しい顧客のニーズによっても牽引されています。プロのユーザーの期待に応えるサービスを提供できることは、私たちの誇りです。

たとえば、Boeingは、打ち上げからISSへのドッキング、地球への帰還までの完全なミッションに従事する宇宙飛行士の訓練に利用するヘッドセットとしてVarjoを選択しました。宇宙ミッションのシミュレー



上が競合他社、下がVarjoのヘッドマウントディスプレイを使用



Cognitive 3D (米) と共に、没入空間での人の行動の計測と理解を実現

ションにおける制御やインタラクションに求められる、人間の目レベルの解像度での視覚的忠実性を提供できるヘッドセットはVarjo以外にありません。

日本企業との協業の可能性は? また、どのような会社が Varjo との相乗効果を生み出せるでしょうか

日本の大手の産業系および自動車関連企業と、仮想設計およびエンジニアリングの分野で協業させていただくと、とても光栄です。例えばAudiでは、Varjoの人の目レベルの解像度により、設計の初期段階で詳細なデザインを把握できるため、設計サイクルの短縮化に一役買っています。Volvoとは、XRヘッドセットをつけたドライバーが車を運転する、すなわち、複合現実を利用することで、まだ設計段階にあるデザインや技術を評価する世界初の試みを行っています。

Varjoの高精度なアイトラッキング機能をベースにした人の行動調査や心理学的調査などのリサーチ用途や、医療専門家向けの医療画像の3次元表示や手術の訓練・教育などの医療用途でのコラボレーションも有意義です。また、日本のクリエイティブ系企業も大変魅力的であり、そういった企業とのコラボレーションも大歓迎です。

今、Boeingなどのアメリカ企業の宇宙訓練ミッションの支援を始めています。JAXAとコラボレーション



VarjoはVR空間での宇宙飛行士のトレーニングを可能に (ビデオ：<https://vimeo.com/428187319>)



Varjoは世界で最も先進的な、産業用途向けVR/XRヘッドセットを提供

できるとすれば、Varjoの夢のひとつがかなうこととなります。

私たちは日本企業との取引において非常に良い経験をしています。実は、日本はすでにVarjoにとって2番目に大きな市場であり、我々は誇りに思っています。現在、日本には株式会社エルザ ジャパンと株式会社エヌジーシーという2つのリセラーがあり、彼らは、日本企業が、プロフェッショナル向けのVR/XRを使用して新たな価値を創出できるよう支援するパイオニアです。エルザには、2019年、我々からグローバルリセラーオブザイヤーアワードを贈りました。彼らの支援、そして日本市場がVarjoに寄せる信頼にとっても感謝しています。私自身は、日本をVarjoの最大市場にしたい、そのために力を尽くしたいと考えています。

将来のビジョンについてお聞かせください

Varjoの技術は、日々の生活に、世界中のどんなものよりも影響を与えることになるだろうと考えています。今日私たちが知っているコンピューターはクラウド型に移行し、携帯電話はウェアラブル没入型メガネに置き換えられていきます。人間の創造性の未来は、Varjoの製品を通じて形作られていくでしょう。私はその時、私にとっての第二のわが家である東京でVarjoのために働き、そして、暮らしたいと思っています。

お問い合わせ

JOI 事業企画部

E-mail: bd@joi.or.jp, TEL: 03-5210-3311

JUSSI MÄKINEN

Chief Marketing Officer, Varjo Technologies Oy

<https://Varjo.com/>

Business Finland Japan

(駐日フィンランド大使館商務部)

上席商務官 渥美 栄司

E-mail: eiji.atsumi@businessfinland.fi

<https://www.businessfinland.fi/en/locations/asia-india-and-oceania/japan/>